

岐阜市役所代表
 ☎(058)265-4141
 ☎(058)264-8602

市政情報は岐阜市ホームページ
<http://www.city.gifu.lg.jp>
 からご覧になれます
 市政へのご意見はEメールアドレス
soudan@city.gifu.gifu.jpへ



■発行日 毎月1日・15日
 ■人口 419,847人
 ■世帯数 169,116世帯
 (平成22年4月1日現在)
 ※外国人登録者数を含みます。

平成22年(2010年)

5月1日号

発行/岐阜市
 編集/市長公室広報広聴課
 〒500-8701 岐阜市今沢町18

伝承される長良川鵜飼の習俗

長良川鵜飼観覧船造船技術が岐阜市重要無形民俗文化財に



造船所では現在、7月に就航予定の30人乗り観覧船の建造が進められています。全長は約12m。船底にソリをつけるため、船底材(シキ板)の上に重石を載せています。観覧船の建造には半年間かかります。



舷側板(ハラ)を付ける様子。設計図面はなく、舟大工の口伝で伝承されています。今回、棟梁(とうりょう)の豊田忠道さん(写真手前)をはじめ4人が造船技術の技芸者に指定されました。

5月11日の開幕を間近にした「ぎふ長良川の鵜飼」。市では、1,300年以上もの伝統を誇る「長良川の鵜飼漁」の、ユネスコの世界無形文化遺産登録を目指して、鵜飼習俗関連調査を進めています。このたび、その関連技術として、「長良川鵜飼観覧船造船技術」と「鵜匠家に伝承する鮎鮓(あゆずし)製造技術」を岐阜市重要無形民俗文化財に指定しました。

このうち、鵜飼観覧船造船技術は、岐阜市鵜飼観覧船造船所(湊町391)で伝承が図られており、“匠(たくみ)の技”を間近に見学することができます。昭和2(1927)年に観覧船事業が市営となった際、船の新造・補修のため、専属の舟大工を雇用したのが始まりで、市営の造船所は全国で唯一。観覧船専門の舟大工は全国でもたいへん珍しいとされます。

建造には、天然の高野槇(こうやまき)を使用し、「モジ」と呼ばれる道具でクギ穴を開ける技術を保持するほか、船底材(シキ板)を立てて組み立てるなど、長良川流域の舟大工が持つ技法と共通の特徴を備えます。また、屋形を載せるための技法が加味されて発達し、伝承されてきたと考えられます。



▲シキ板(船底材)を立てて、組み立てていきます。



▲クギを打ち込むための先穴を、モジを使って広げていきます。



▲クギを打ち込んだ後、防水のために、クギの打ち込み口(ダキ)に埋木を打ち込んでいきます。

造船所を見学しませんか

- ◆日時 月～金曜日(祝日を除く)の午前9時～午後4時
- ◆見学料 無料 ※建造が見学できない場合は、舟大工からの説明を交えてパネルで紹介します。
- ▶問い合わせ先 鵜飼観覧船事務所 ☎262-0104

ただきたいものです。わが郷土が誇る長良川鵜飼。百聞は一見にしかず。市民の皆さんにも大いに楽しんでいただきたいと思います。

長良川鵜飼の世界無形文化遺産登録は鵜飼に対する世界の注目を集め、各地の鵜飼の活性化に大いに貢献し、結果として鵜飼文化の保存に大いに資するものと期待しています。今年も5月11日の鵜飼開きが間近となりました。4月5日に始めた予約状況も昨年以上に順調のようです。今年も、いよいよ旧長良川ホテルの跡地にうかいミュージアムの建設が始まります。平成24年のぎふ清流国体・ぎふ清流大会への完成を目指し、雨の日や、オフシーズンにも観光客の皆さんに鵜飼の醍醐味を味わっていただけるよう考えています。

去る4月8日茨城県の日立市で鵜飼サミットが開催され、岐阜市を含む13市が参加しました。日立市十王町は各地の鵜飼に欠かせないウミウの捕獲地ですが、今後は鵜飼の開催も検討していかれるようです。もともと漁業の手法のひとつとして始まった鵜飼ですが現在では観光資源であり、かつ貴重な文化遺産でもあります。毎年12万人前後の観覧者数を誇る長良川鵜飼は別格で、他はいずれも数千人から1万人前後の観覧者数で、しかも年々減少傾向にあります。

市長の
元気
 宅配便¹⁵⁸
 めざして
長良川鵜飼：ユネスコの世界無形文化遺産登録を
 市長 細江茂光